

生きて使える漢字習得法 “楽しい”を武器にしよう！

埼玉県上尾市立大石南小学校教諭 糸井 千秋

『くりかえし漢字ドリル』は児童の“助っ人”

現在、小学校課程に配当されている漢字は1006字です。この漢字が、多くの児童にとって大きな壁となってしまうことがあります。さらに、教える側の教師にとっても、重荷・負担となりがちなものなのです。そのため、漢字学習には数多くの教材があり、その取り扱い方もいろいろと工夫されているようです。特に漢字ノートの指導には、多くの先生方が様々な方法をとられています。

私は、漢字学習については『くりかえし漢字ドリル』と市販の漢字用ノートを長く活用してきました。漢字を、何のために、どのように、何を目的として学習させていくか考え、どうすればより効果的・効率的に楽しく学習させられるか考えることで、私が最終的に落ち着いた方法が、これから紹介する方法です。1「漢字ノート作り」で漢字を生活に活かす力を養成し、2「ミニ漢字テスト」で学習の成果を確かめ、意欲喚起を図るこの時に『くりかえし漢字ドリル』が、大いに児童の助っ人になってくれるのです。

なお、このような方法で学習させる主旨とねらいについて、年度はじめの懇談会などで保護者にも説明し、理解と協力を求めておくと、さらに年間の漢字学習が進めやすく、児童にとっても効果的な学習となります。

1. 「漢字ノート作り」

新出漢字を習得させるために、私は児童に

『くりかえし漢字ドリル』を併用した「漢字ノート作り」を、3つのステップに分けてさせていただきます。

ステップ1 まず、新出漢字を正しく把握させて基本をおさえる。

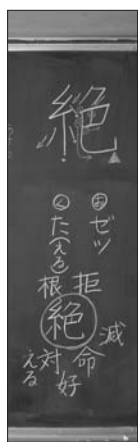
ステップ2 もう一度、確認の漢字練習をさせる。

ステップ3 最後に、熟語集めと文作りでノートを完成させて、漢字の使い方を覚えさせる。私の場合、ここまでの「漢字ノート作り」を、各学期はじめの1ヶ月〜1ヶ月半を目標に終わらせています。

ステップ1

【新出漢字を正しく把握させる】〜教室で

① 漢字の字形・筆順・読み方・意味・使い方などを黒板に書き、解説を加える。（マス黒板を使ってもよい）



② 『くりかえし漢字ドリル』のなぞりマスを使って、2マス「なぞり練習」をさせる。※ここでは、字形・筆順・字のバランスなどを、手と頭に刷り込みます。



③ 字形・筆順・字のバランスなどが正しく書けるようになったら、あらかじめラインを引かせておいた市販のノートに、大きく漢字を書かせる。



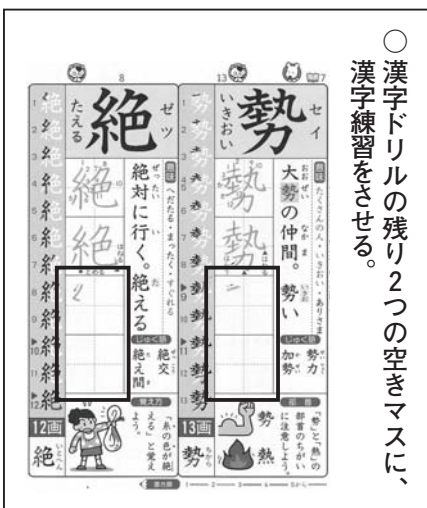
▲ノートに書かせた漢字は確認します。

1時間で7〜9字の新出漢字を扱います。中・高学年の場合、一通り説明をしてから②のなぞり練習③の漢字ノートに取り組ませます。ここまですを授業中に行い、新出漢字が正しく書けているか、ノートを確認します。間違っていた場合はその場で直させます。最初にしっかり覚えさせることは、どんな学習でも大事なことです。ですから、ここでの教師の確認は大きな意味があります。

ステップ2

【新出漢字をドリル練習によって再確認】〜教室で

○ 漢字ドリルの残り2つの空きマスに、漢字練習をさせる。



日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？
このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

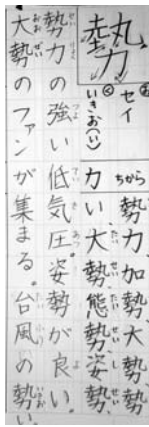
私のクラスでは、黒板で習ったところまでは、順次練習してもよいことになっています。多くの場合、朝自習やちょっと空いてしまう時間などにやらせています。ちょっと空いてしまう時間とは、例えば、体位測定などの待ち時間、研究授業参観などで教室を空ける時、他の課題や作業が終わった残りの時間などです。時間をうまくやりくりすることで、ほとんどすべての児童は学校にいる間に終えることができます。それでも時間のない場合は、宿題にします。

【ステップ1】と【ステップ2】は一度にやらせず、少し間を空けることで、くりかえしの効果が高まります。一度に10回書くより、5回ずつ二度書くほうが成果は出ます。つまり「くりかえし」です。

ステップ3

【必要事項をまとめながら覚えさせる】
家庭学習で

○市販のノートに、①音読み・訓読み
②部首・部首名 ③熟語 ④その漢字
を使った文を書かせ、「漢字ノート」
を完成させる。



この練習は、1日に2〜3字ずつ、ほとんど毎日宿題に出します。

筆順や「はらう」「とめる」「はねる」などについては【ステップ1】で確認していますが、ここでは覚えてもらえるわけではありません。そこで『くりかえし漢字ドリル』に活躍してもらおうのです。家庭学習でも、ドリルの筆順番号を確認しながら学習させます。難しいところには、【ステップ1】③で書いたノートの漢字に筆順番号を記入させます。「はらう」「とめる」「はねる」などのマークも、ドリルを見て再度確認しながら、家庭学習するように促します。音読み・訓読みや部首・部首名、熟語などは『くりかえし漢字ドリル』に書いてあるので活用させます。それでも足りない情報を得るために、児童には必ず国語辞典や漢字辞典を使うようにさせています。そうすることで、苦手と言われている「辞書引き」にも必然的に慣れることができるわけです。

また、宿題に出した漢字はその日のうちに添削して児童に返します。やったことをすぐ評価されるので、自分の取り組み方に自信を持てますし、間違った場合は記憶を修正しやすいようです。その場で間違い直しもさせます。間違い直しもその時・その場のほうが、習熟率もよいのです。この期間、添削するほうもきついですが踏ん張りどころです。

2. 「ミニ漢字テスト」で成果を確認

「漢字ノート作り」がひと通り終わったら、漢字ドリルを使って、文をまるごとくりかえし書く練習をさせます。その後、成果を確認するために「ミニ漢字テスト」を実施します。

ステップ4

くりかえし練習後、

「ミニ漢字テスト」で意欲と自信倍増へ！

○「読む」のページで練習 ○

- ☆正しい漢字を見て、文ごと書く練習
- ☆送りかな・読み方にも気を付ける

○「書く」のページで試してみる ○

- ☆わからなかったところに印を付ける
- ☆間違えたところにも印を付ける

○「読む」のページでもう一度練習 ○

- ☆わからなかったところ、間違えたところを徹底的に練習

○「書く」のページで再チャレンジ ○

- ☆印を付けたところを書けるようになったか確認

いざ！「ミニ漢字テスト」へ！

練習させるとき

は、「読む」のペ

ージを見ながら文

をまるごと書かせ

ます。あえて「読

む」のページで書

く練習をさせるの

は、ここで正しい

漢字を見て正しく

練習させるため

です。つまり漢字を

間違えたままノー

トに何回も練習さ

せないためです。

新学社のドリル

は、読みを間違え

やすい漢字につい

ては^⑧で強調さ

れているので、そ

こに注目させ、送

りがなや読み方に

も気を付けさせま

す。「読む」のペ

ージで何回か練習

したら、「書く」

のページで試して

みます。書けなかつたり間違えたりした字があ

ったら、その字が「苦手、覚えていない」と

いうことになります。そこで、その漢字をも

う一度「読む」のページで確認させるととも

に、印を付けさせ、印の付いた番号は特に練



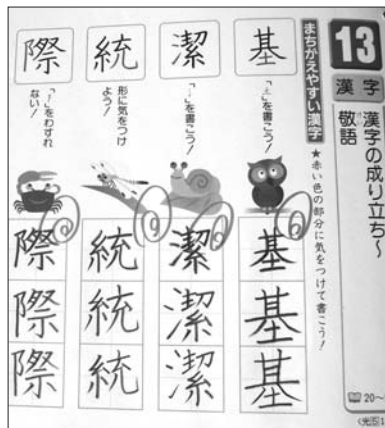
▲「読む」のページ



▲「書く」のページ

習するよう促します。児童は自分のノートに何回も練習します。時には、家庭でもチェックしてもらいます。

漢字をコンパクトな文章で練習できるのは、『くりかえし漢字ドリル』の魅力です。また、「まちがえやすい漢字」は『くりかえし漢字ドリル』にピックアップされています。こういうページこそ大切に扱い、丁寧に丸付けをしています。



▲「まちがえやすい漢字」は、特に丁寧にチェックします。

この練習も、朝自習の時間・ちよつと空いた時間を使うほか、ドリルのページを指定して宿題に出します。このような方法で学習させていけば、必然的にドリルをくりかえして活用できてしまうのです。

練習の後には、「ミニ漢字テスト」にチャレンジさせます。「ミニ漢字テスト」は、新出漢字の習熟度の確認や児童への励まし、意欲喚起の意味を込めて実施します。『くりかえし漢字ドリル』の「書く」のページや、時にはドリルの「熟語」欄からも出題します。

なお、低・中学年では「ドリル1」「ドリル2」を分けて練習させ、テストも分けて実

施します。高学年でも実態と内容に応じて使い分けます。



▲「ドリル1」「ドリル2」は、各7~10問です。

活きて使える漢字学習のために

私が子どもたちに熟語で覚えさせ、さらに文章の中で練習させることにこだわるのには、理由があります。実は児童は、漢字だけ覚えなくても、「使い方がわからない」「応用が利かない」といった覚え方になっていることが多いのです。例えば、「大勢」は書けるけれど「勢力」と出題されるとわからなくなるのです。そこで、多くの熟語や使い方を「漢字ノート作り」で覚えてもらいたいというねらいがあ

漢字の学習を先行して進める効果

前述の通り、私はこの10年程の間、**ステップ1** **ステップ3** の「漢字ノート作り」を、各学期のはじめの1ヶ月程度で終わらせています。以前は、「児童にとつて、多くなると負担では…」と考えがちでした。しかし実践の中でわかったことは、「今日は漢字」と決めて集中的に学習させたほうがよく覚えるということです。さらに「漢字ノート作り」を早めに終えることで、**ステップ4** でのくりかえし学習に時間的なゆとりが持てるのです。児童も精神的なゆとりを持って学習できます。

若い頃は、学期末に新出漢字の残り数を数えてあわてたものです。しかし、この方法をとつてからは、音読の宿題で児童に「先生、この漢字は習っていません」と言われることも、期末テストの前に「漢字練習の時間がちょっと足りないかしら」などと心配することもなくなくなりました。

このような漢字学習のやり方に慣れてしまえば、児童のほうからも「先生、あと少しだからやりたいなあ」などと乗ってきて、楽し

く学習しています。「楽しい」「は意欲です。『くりかえし漢字ドリル』を『友』にして、意欲を持続させるために、色々なエッセンスを常に加え続けることも、教師として重要なことだと思えます。

▼「漢字ノート」は丁寧にチェックするとともに、必ず励ましのコメントを書く、シールを貼るなどの工夫をしています。



検証より

本校で平成20年の2月に、『国語学習に関する意識調査』を実施しました。その結果、本学級の児童のうち84%が国語が好きと答え、その理由として「漢字を書いたり、読んだりできるから」と答えた児童は81%、「漢字学習が楽しい」と答えた児童は86%という、うれしい結果が得られました。

まずは、「好きだ」「楽しい」といった気持ちに意欲を育むことが、漢字習得、さらには学習全般において何よりの武器になることでしょう。

新学社の『くりかえし漢字ドリル』お役立ち付録

児童用

「このドリルで習う漢字」と「前学年で習った漢字」がひと目でわかる「漢字表」



このドリルで習う漢字
 (『くりかえし漢字ドリル』巻頭)

進度のチェックやテスト前の確認に!

教師用

当該学年で習う漢字の一覧をポスターにした大判漢字表



教室に掲示して、
 子どもたちの意識付けに!



前学年で習った漢字
 (『くりかえし漢字ドリル』巻末)

漢字の見直しや復習に!